

世界の人びとのための JICA 基金活用事業

日本の市民・法人団体の皆様からのお預かりした寄付金を基に、次の対象となる事業の活動を支援します。

HOP 国際協力の第一歩！

対象となる事業

- ① 開発途上国・地域の人びとの貧困削減や生活改善・向上に貢献する活動
- ② 日本国内の多文化共生社会の構築推進、外国人材受入れ支援に関する活動

事業期間：最大1年間 提案上限金額：100万円（第三者への直接支出額のみ）

対象団体：草の根技術協力事業や NGO 連携無償資金協力事業の採択実績がなく、過去の JICA 基金実施実績が2件以下である団体、等

草の根技術協力事業

草の根技術協力事業を行うには、次の要素を満たす必要があります。

- ① 日本の団体が行う人を介した「技術協力」であること
- ② 相手国側実施機関（カウンターパート）と協働して行うこと
- ③ 開発途上国の人々の生活改善や生計向上に直接役立つこと

STEP 草の根のかたちは3通り

1 草の根協力支援型 本格的な国際協力をこれから始めたい！

事業期間：最大3年間 提案上限金額：1,000万円
開発途上国への支援実績が少ない NGO 等の団体向けです。
国内外での経験が2年以上あり、登記2年以上の法人であることが必要です。

JUMP

2 草の根パートナー型 団体の豊富な経験を活かしたい！

事業期間：最大3年間 提案上限金額：1億円
開発途上国における国際協力に豊富な実績を有している NGO 等の団体向けです。
登記2年以上の法人かつ過去5年間に2年以上の開発途上国や地域における活動実績が必要です。

3 地域活性型 地域の技術・経験を活かしたい！

事業期間：最大3年間 提案上限金額：6,000万円
地方公共団体を対象としたものです。
指定団体と協力して事業を実施することが可能です。

提案の大切なポイント

- ・現地のニーズや課題を把握し、分析ができていますか？
- ・実施体制は十分ですか？
- ・プロジェクトの戦略は課題の解決に効果的ですか？

応募のアイデアから事業開始まで

JICA 国内機関へのアイデア相談

アイデアが草の根事業に合致しているか確認しましょう。
JICA 九州ウェブサイト「[Forms] JICA 九州 草の根技術協力事業応募相談用調査」を準備していますので、まずはこちらに記入ください。詳しくは右 QR コードから。



コンサルテーション

草の根技術協力の要件に合致するか、応募相談を実施し、案件内容を精査します。時間をかけて提案内容を固めていきます。

応募

事業提案書類と資格審査書類を提出します。

選考・結果通知

JICA 及び外部有識者による審査を実施し採択案件を決定します。

事業計画や事業経費の見直し

相手国政府や実施期間からの了承取付

JICA との業務委託契約締結後、事業開始！

NGO等向け事業マネジメント研修

草の根技術協力事業の提案を検討している方におススメ！
計画・立案編

事業サイクルマネジメントの考え方をを用いて、事業の計画・立案ができるようになることを目指します。

対象者：開発途上国での国際協力事業運営に関し、基礎的な知識や考え方を習得したい NGO 等のスタッフ

草の根技術協力事業提案検討中・採択済・実施中の団体におススメ！
モニタリング・評価編

事業サイクルマネジメントの手法を用いて、実施中の事業を適切にモニタリングし評価できるようになることを目指します。定期的なモニタリングや体系的・客観的な評価の重要性と方法を理解します。



独立行政法人国際協力機構九州センター 市民参加協力課
〒805-8505 福岡県北九州市八幡東区平野 2-2-1
Eメール kictpp@jica.go.jp / TEL 093-671-6311（代表）

九州の経験・知識が途上国で役立つ！

草の根 技術協力事業



日本の NGO や NPO、自治体、大学、企業などが、これまでの知見や経験を活かし、途上国地域の経済、社会の開発または復興に協力することを目的に行う国際協力活動を提案いただきます。JICA による審査、採択を経て提案団体と共に行う事業です。

活動等を通じ、日本国内の国際協力への理解・参加を促す機会となることを期待しています。また、事業を通じて培った経験を活用し、日本の地域社会が直面する課題解決、地域の活性化にも役立つ取り組みを行うことも期待しています。

福岡

-----> パートナー型

ラオス



「昆虫食」にも挑戦する、 草の根技術協力！

農村部住民の食糧事情向上を目指した
昆虫養殖技術普及事業

- 特定非営利活動法人 ISAPH
特定非営利活動法人食用昆虫科学研究会

ラオスの昆虫食文化を活かし、美味しくて
栄養のあるゾウムシとバッタの養殖に挑戦し、
地域住民への技術移転を行いました。事業終
了後も、当地の名物としての商品開発を行い、
食糧事情向上のみならず、収入向上にも取り
組んでいます。



長崎

-----> パートナー型

ケニア



顧みられない熱帯病にも、 大学の知見を活かして 専門的にアプローチ！

ケニア国ホマベイ地区における
持続可能なスナノミ感染症対策プロジェクト

- 国立大学法人長崎大学

スナノミは砂地や家畜小屋に生息するノミ
の一種。感染すると、痛みだけでなく、患部が
変形し、その見た目から偏見を持たれ、仕事や
就学が困難になることもあります。効果的な治
療や予防についての技術指導・啓発活動を行っ
たことで、感染者数が劇的に減少しました。



福岡

-----> 世界の人のための
JICA 基金

日本



【多文化共生 / 外国人材受入支援】 協力隊経験を活かして、 在住外国人をサポート！

来日直後の日本語がおぼつかない
在日ネパール人児童に対する効果的な
学習支援体制構築プロジェクト

- 特定非営利活動法人 SEWA

JICA 海外協力隊経験者が立ち上げた団体
で、在日ネパール人を支援しています。小学
生向けの算数の副教材（教科書の隣に置い
て使える、自己学習教材）を作成。合わせて、
教室での異文化理解を促進するワークショ
プも開発します。



北九州

-----> 地域活性型

カンボジア



世界を驚かせた水道改革、 “プノンペン”の奇跡”は続く！

プノンペン下水道維持管理能力・
浸水対応能力向上プロジェクト

- 北九州市上下水道局

下水道施設の維持管理が効率的にできるよ
う、カウンターパートと共に「管渠維持管理マ
ニュアル」を作成し、彼らの能力向上に繋げ
ることが出来ました。また、浸水対策訓練を
実施し、市民の意識改革に取り組みました。

九州から
世界 36 カ国へ
(2025年3月時点)



鹿児島

-----> 地域活性型

ミクロネシア



かつお節の縁でつなぐ協力

ミクロネシアにおける水産系残滓処理に
よる養豚用飼料普及プロジェクト

- 枕崎水産加工業協同組合（枕崎市）

現地では物流発展等により、残飯・イモ
類の養豚飼料から利便性の高い配合飼料へ
シフトしています。そこで、水産系残滓を
活用した養豚飼料を安定的に生産し、農家へ
普及する活動を行いました。栄養価が高く
比較的安価な飼料は、豚の良好な成育にも
貢献し高い評価を受けています。



北九州

-----> 支援型

マレーシア



「みどりのノート」で 地域を巻き込み環境教育

マレーシア国マラッカ市循環型社会形
成に向けた市民の 3 R 活動に波及する
学校教育モデル構築支援事業

- 国立大学法人九州工業大学

北九州市の環境教育教材「みどりのノ
ート」や、「環境首都検定」のマラッカ版を
作成し、環境教育リーダーを育成しながら、
児童 1200 人に環境教育を実施しました。
また、3R イベントを開催することで、学
校と家庭のリサイクル量が倍増しました。



大分

-----> 支援型

ペルー



大分発！パラスポーツ発祥の地 から、南米へ！

ペルーにおける障害児スポーツ指導力
強化および普及促進プロジェクト

- 公益社団法人大分県理学療法士協会

ボッチャや卓球バレー、T ボールをリハビ
リに取り入れ、身体的な機能改善だけでなく、
楽しく社会性を養う機会を多くの子どもたち
に提供しました。日本とペルーの距離や時差
などの課題にも関わらず、オンラインツール
等を活用し、両国の医療従事者同士で友好
関係を築きました。



宮崎

-----> 地域活性型

バングラデシュ



バングラデシュと宮崎、 経済交流の架け橋を！

宮崎ーバングラデシュ ICT 人材育成事業

- 国立大学法人宮崎大学（宮崎市）

日本企業との架け橋となる計 296 名の
バングラデシュ人材に、日本語やビジネス
マナー研修を実施し、バ国ー宮崎、双方の
経済交流窓口を設置しました。ICT 企業や
人材間の相互理解が促進され、中長期的
な人材の環流やバ国の ICT 分野の発展が
期待されます。

